

### Ⅲ 連合会関係

#### 1. 組織

- (1) 有馬会長の後継は吉川弘之第25代総長：連合会会長は歴代の林健太郎先生、向坊隆先生、森亘先生、有馬朗人先生と元総長にお願いしており、順番は吉川弘之先生、蓮実重彦先生、佐々木毅先生ですので、昨年末より吉川先生にお願いしておりましたが、本年1月7日にご承諾のメールを頂きましたので、ご報告申し上げます。コロナ感染下、未だ対面でのご挨拶は厳しくオンラインを予定しております。
- (2) 東京銀杏会事務局及び連合会事務局の後継体制：
- ① 土田氏は10年以上、事務局長として緻密な且つ多方面の業務をワンゲルOBらしい頑張りでこなして来ており、後任を育てる必要性を感じないままの突然の損失で、多くの幹事のいる東京銀杏会でも代替人材をすぐ見つけるのは難しいと思われる。暫定的に事務局長代行は小浪悠紀子副代表幹事(1968薬)、そのサポートに秀島鋭介幹事(1976・法)にお願いしている。
  - ② 連合会においても、校友会地域同窓会本部を兼任から始め、更なる校友会との統合を進めるにあたり、事務局次長土田氏の存在を頼りにしていた面もあり、同氏の損失により、連合会の事務組織も見直すことが必要になる。
  - ③ 事務局の事務体制については、
    - ① 12月1日より女性事務員(井上法子氏)のパート雇用(週3回)を開始、東京銀杏会の会員管理(金井氏作成のエクセルベースの会員管理ソフトによる)の他、電話その他の雑務を行う予定。
    - ② 会計は東京・連合会共に元森会計事務所に毎月の会計処理を委託しました(証憑書類を月一回提出前提)。
- (3) 2020年度年会費のご請求と2021年度年会費の見直し
- ・2020年度年会費については、年度内のご請求・入金を目標にしておりますが、事務局の人手不足もあり、できれば1月中旬に予算見通しと共に幹事会の確認を得て請求書発行を考えております。尚、ゆうちょ口座・銀行口座名義は手続き遅れから東京大学同窓会連合会のままで行う見通しです。
  - ・2021年度年会費見直しは総会(5月25日予定)にて行いますので、各会のデータ提出をお願いいたします。

#### 2. 校友会関連

- (1) 岡崎代表幹事による地域同窓会会誌への投稿活動校友会との大同団結による全学同窓会の重要性につき学内外の理解は十分でない状況を打破するため、岡崎代表幹事は東京銀杏会、埼玉銀杏会、東海銀杏会、関西東大会等の会誌への投稿を通じて、末端の会員の皆様にも全学同窓会の重要性を訴え、学内外へのアピール活動への協力を要請しております。近々、連合会ニュースへの投稿を予定しております。よろしくお願いたします。
- (2) 校友会との協働体制
- ・校友会会則改定 W/G は(ZOOM12/7)に継続的に参加している。
  - ・津田副学長をホスト、島田卒業生部門長・神澤校友会事務局長、連合会は岡崎代表幹事・長寄事務局長・土田事務局次長(東京銀杏会事務局長)をメンバーとするテーマを設けないフリーな月例 ZOOM 同窓会懇談会は本年1月14日に第11回を迎える。
- (3) 地域同窓会本部の目標
- 地域同窓会の会員拡大のため、以下に述べる事業を推進すると共に、2021年度内の校友会との大同団結(統合又は合併)の具体案を固める必要がある。
- (以下、前号掲載と同文)
- (1) 地域同窓会本部の目的は、「国内の地域単位の同窓会活動を支援する」ことで、具体的内容は、校友会・大学関係部門と協議するが、事務局としては、下記を重点に地域同窓会発展を図りたいと考えております。
- ① 広報手段の強化：
 

TFT、校友会ニュース、更には地域連合会ニュースの学内配布拡大等の広報強化。
  - ② 年次による同窓会推進：東大には組織的な年次同窓会は未だ無い。地域同窓会本部として、学部・院同窓会、運動部・サークル団体、五月祭・駒場祭委員会と協議して、その学年の年次ネットワークの育成・発展を図る。出来れば、直近の2021年卒の核となる幹事の幹事群指名まで進める。

私案は、入学時に校友会主催の新生歓迎・校友会学生会員入会式を開催、駒場を出る段階で駒場出陣クラス幹事任命式を開催する、また、本郷では、卒業式前夜に、卒業年次送別会を開催、学部・院、運動部、サークル他の同期幹事任命式を行うなどが考えられます。

- ③ 在京県人会拡大構想：コロナという異常事態では地方出身学生のストレスは大きい。鳥取、徳島、山口の各県出身学生・教職員は新生歓迎会、就活支援などの活動を行う。この仕組みを他の県にも拡大、地域の絆による地方出身学生(特に女子学生)のセイフティネットとして、大学の重要なインフラとする。
- ④ 地域支部構想：日本国内・海外における東大同窓会の発展は、大学自体の発展に繋がる。日本全国で自主的に立ち上がり、東大の旗を掲げ、地域における東大卒業生の交流・親睦、そして支援に努めて来た地域同窓会は、東京大学の地域連携拠点の役割をも果たす可能性を持つ。大学とのより緊密な連携を推進したい。

### 3. 新型コロナウイルスについて事務局長からのお願い

年末から第3波の新型コロナウイルス感染数は急速に増えており、ウイルス変異による感染リスクは想定以上に拡大しているかもしれません。

昨年の同窓会活動について、万全の感染防止対策を講じてイベント開催することは勇気ある決断だったかもしれませんが。世間では、相変わらず、インフルエンザより重病率・死亡者は少ない、恐れる必要はないとの声もあります。私も同調した面もありますが、今年状況では同じ幸運が続くか自信がありません。

問題は新型コロナによる医療体制の逼迫で、他の病気の患者が適切な治療を受けられない状況になることです。転院を繰り返さざるをえなかった土田氏のご逝去もコロナ禍による医療体制逼迫が原因とも言えます。

今年については、現場の手配の責任も持つことになる各事務局の皆様をお願いするのは、まずは、リアル開催に代わるオンラインとか別の効果的な方法を模索して頂きたい。どうしてもリアルで開催するなら、感染対策等含め全ての点につき責任ある役員全員の合意を担保に実施して頂きたいということです。よろしくお願ひします。